

『人生ハンド仏句』9月号（78）【心を開く』挨拶』を通して、比べぬ人生を】

皆様「こんにちは！」先月はお盆の棚行で、檀家の皆様のお元気なお姿、或いは帰省されたご家族の皆様の、お元気そうなお姿を拝見し、私は元気を頂きました。中には昼食の準備をして、私の参上をお待ちになっておられた檀家様もおられ、身も心も満腹にして頂き感無量でした。皆様、その節は「有り難うございました」。

さて、今年も気が付けば早九月です。昨年を象徴する漢字一文字が、清水寺で「偽」と表現されました。それを受けての今年は、「真」を心に誓いスタートした我が国日本でした。しかし振り返れば、昨年の「偽」を継承するかの如く、大分県で発覚した教員採用に当たつての不正事件が起きました（敢えてこの問題には触れなくなつたのですが、檀家の皆様からの関心が、この事件に集中しましたので、紙面を借りてお答え致します）。

この事件は、教育の現場のことだけに「示しのつかない不祥事」と言えます。これによつて失墜してしまつた教師の権威や信頼を一体どうやって回復するのでしょうか。その罪は極めて大きいと感じます。人生を川の流れにたとえれば、学校教育の場は上流部に位置するはずです。上流で毒を流せば中流や下流の水までも汚染されてしまうのは当然のこと。まず上流の水質改善からはじめなくては悪い世相が改まることはないでしょう。その学校教育の場よりさらに上流にあるのが保育園や幼稚園で行われている幼児教育の場です。しかし人生という川の水源地は『家庭』に始まりです。川が一番上から順番に浄化しなくては綺麗になりません。これは当然の事と言えましよう。私達は改めて原点に立ち返り、自らの「振舞」を正さなければいけません。人間としての振る舞いの基本は『挨拶』ということになりましよう。

「挨拶」という言葉は禅の言葉です。「挨」には押す、「拶」には迫るといふ意味があります。つまり相手の心の中に切り込んでいくということです。

考えはかることを「商量」と言いますが、禅問答をする時に、師匠は弟子達に向かつて力をはかつてみる。聴く人の方は師の言葉の中から禅の教えを引き出そうとする。そうした命と命のやりとりが、本来の挨拶の意味だったようです。今日ではそれが儀礼的なものになっていきますが、「おはよう」「や」「こんにちは」という何気ない言葉の中にも、心を込めて相手に何かを訴えていきたいという思いがあります。一つも無駄な言葉なんてないのです。ところが現代では、家族同士の中でも「おはよう」「すら言わない」ご家庭が増えてきた様です。そうやって言葉が欠けてきた、挨拶が欠けてきたということから、人間関係が冷ややかになって、悲しい殺人事件が起これるといった事態にまで発展しているのではないかと懸念しています。

余談ですが、近年の殺人事件における、殺人者（犯人）の半数は、身内による犯行と
いう信じられない結果が出ています。

挨拶とは何でもない言葉の中に心を込めて、相手の人間性を引き出していこうとする「祈りの言葉」であることをまず申し上げておきます。挨拶には色々ありますが【ありがたう・すみません・はい】の「の」の三つの言葉、ぐらいは最低実行して頂きたいものです。自分から

進んで大きな声で「ありがとう・すみません・はい」と言えば良いのです。

これを繰り返すだけで、心が晴れやかに、活き活きとしてきます。皆さんも試しにやってみて下さい。ご家庭でも職場の中でもいいですから。

「ありがとう・すみません・はい」この挨拶を繰り返していけば、自然に心が安らかになっ ていきます。仏教で「ありがとう」という言葉は「感謝」と同義語になっていますが、本来の意味は「有ること難し」です。滅多にないということ。稀有の事実ということですね。本来、有り得ないことが今ここに有るんだという事実です。だから感謝の前に、まず稀有の事実を知ることなのです。

それから「すみません」とは、「謝る」という意味より前に「すんでいない」という事が言えます。決済をしていない、未済だということなのです。私達は自分一人では生きていられないわけもなく、大勢の人の力を借りて生かさせて頂いています。その恩返しはまだ済んでいません、という深い反省の言葉なのです。それを自分に言い聞かせる意味で「すみません」。これなら気持ちよく言えるだろうと思います。

そして「はい」とは、単に人に呼ばれた時の返事ではありません。「はい」と返事するのは、自分が自分になるということ、自分自身を取り戻すことが出来るということなのです。確かに呼ばれた時にモゴモゴするよりは「はいっ！」「と、返事をしてみて下さい。気持ち がスカッととして、本来の自分に出会うことが出来るはずです。だからそういって何でもない挨拶や言葉の中にも、様々な意味が含まれているということを考えていただければと思います。

仏教でよく言うことですが、「比べたら駄目だ」ということが大きな教えの1つにあります。今年は七月から猛暑日が続きました。そんな暑い日に、ああ今日は涼しかったらなあ、そう考えた方も多いでしょう。しかしそう思えば思うほど、暑い事が苦しみになるのです。物事は比べると苦しみに変わります。ではどうしたらよいのでしょうか？物事は比べずに、そのものに溶け込んでいくこと、同化していくということが大切なことです。好きなことに夢中になるように「三昧になる(心を統一し、安定した状態)」ということが、苦しみに立ち行くことなのです。暑い時には「暑い暑い」と言っても良いのですが、暑さになりきっていくが肝心です。それ以外に克服する方法はありません。物事を比べずに三昧に入っていけば、必ずそこに一筋の道が開けてきます。どんなに苦しい現実が目の前に立ち現れても、逃げたら駄目なのです。もうそれに全部溶け込んでしまっ。これが人生の修行というものです。苦しみから逃げずにそれを味わっていく。どこまでもその当事者になって溶け込んでいく。どうか皆様も苦しいことがお有りでしたら比べずに、苦しいことや悲しいことに溶け込んでみてください。すると、そこに一条の光が射す道が開けてきます。また人生を生き抜いていける喜びも出てくる事だろと思えます。それこそが最良の解決方法と言えます。しょう。

人生を歩んでいると、挫折の日がしばしばやってきます。その挫折の苦しみから逃げようと、もがくのではなく、「挫折は成功の母」「くらいに思い致し、』挨拶』という金錢の

からない、身の回りの環境を整えてくれる振る舞いを実行して、明るく、人生という修行を堪能してみましよう。檀信徒の皆様方の幸福を切に願って止みません。

合掌 副住職 谷川寛敬